(1) 平成 27 年 11 月 第 140 号





三浦実験林現地見学会での湿性ポドゾル土壌の確認(長野県木曽郡王滝村)

三浦実験林50年史記念行事が開催される

主な項目	○ 三浦実験林50年史記念行事 ····································
	○ 合地がらりたより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	○ シリーズ「森林官からの便り」 ······P9
	○ シリーズ「ご当地自慢」 ······P10

|浦実験林五○年史記念行事

地見学会」を開催しました。 域の皆さんに報告する「講演会」と 成果を調査研究に携わってきた方々や地 日にかけて、この五〇年間の歩みと研究 えるに当たり、十月二十二日から二十三 三浦実験林_ みうれ (技術普及課] が、 木曽森林管理署管内の 設定より五〇年を迎

事態を打開するため、 生は当時深刻な問題となりました。この 第二室戸台風の襲来により、大量の風倒 す。その上、二點を超えるササに覆われ 時の長野営林局が三浦実験林として、広 被害が発生し、本地域における森林の再 三十四年の伊勢湾台風、昭和三十六年の ります。このような自然環境の下、昭和 の悪い湿性ポドゾル土壌が分布していま 涼多雨な気候であるため、酸性で透水性 れている三浦国有林内にあります。 新技術の確立を目指し調査研究を行って 大な規模の各種試験地を設定し、 ているため、更新が大変難しい条件にあ くから天然木曽ヒノキの産地として知ら 王滝村内にある「三浦実験林」は、 昭和四十一年に当 冷

当初から天然更新技術の確立にご尽力い ○○名の方に参加いただき講演会を開 概要」について説明の後、 日目は王滝村公民館において、 有井技術普及課長より「三浦実験林 実験林設定 約



会場の様子

の現地見学会を実施しました。 ら「ヒノキの天然更新を促進させるには 年の歩み~」について、国立研究開発法 るヒノキ天然更新技術開発の概要~五〇 部岡野哲郎教授から「三浦実験林におけ 験林の調査に携わってきた信州大学農学 都大学助教授赤井龍男先生とともに、実 五〇名の参加者とともに「三浦実験林 いて、それぞれご講演いただきました。 ~帯状皆伐更新試験を例として~」につ 人森林総合研究所森澤猛研究情報科長か ただき、本年一月にご逝去された、元京 二日目は、まずまずの天候のなか、約

るなど、厳しい自然条件下での更新の難 うなるのか」などの感想や質問が出され ドゾル土壌などを実際に確認しました。 内にも入り、風倒木の根張りの状況やポ 壌となってしまうのか」「降った雨はど 現地では試験地の遠望のほか、試験地 参加者からは、 「自然にこのような十

> いてご理解いただけたのではないかと考 しさや、長年の調査研究の取り組みにつ

謝の意を表するとともに、この間の貴重 用していきたいと考えています。 天然林施業を進める上での指針として活 な成果については、今後の木曽ヒノキの 調査研究が続けられてきたことに深く感 のご努力とご協力により、長きにわたり おります。設定より多くの関係者の皆様 はもとより世界でも極めて希と言われて 毎年調査研究が行われている例は、 大な規模と五〇年間という長期にわたり 三浦実験林のように面積四二〇鈴の広 日本

定しています。 実験林五〇年史」として今年度発行を予 これらの五○年間の研究成果は 三浦

第三十九回全国育樹祭

手から手へ豊かな緑でぼくらの未来~

皇太子さまをお迎えし、全国育樹祭が開 郡揖斐川町谷汲名礼の谷汲緑地公園にて [**技術普及課**]十月十一日、 岐阜県揖斐

三ツ伐り保存会により伐倒作業が行われ 三度ノコギリを挽かれ、その後、 行われました。皇太子さまはスギの木に 式典に先立ち行われたお手入れ行事で 全国育樹祭では初めての「間伐」が 裏木曽

間伐が行われたスギ林は、昭和三十二

に岐阜県の名産品の販売を行う「おもて ちのご視察が行われた場所であり、皇室 年に昭和天皇、 林管理署の木工クラフトと展示のブース なし広場」が設けられ、出展した岐阜森 が参加。式典開始前には、会場の隣接地 殿下(今の天皇皇后両陛下)による枝打 作りに大人も子どもも笑顔で熱中して作 には長い列ができ、可愛いキーホルダー 三代にわたる森づくりが実現しました。 緑地公園での式典には約五、八〇〇名 昭和五十一年、当時の皇太子同妃 香淳皇后がお手植えにな

型モニターで皇太子さまのお手入れ行事 の様子が中継され、大木が音を立てて倒 れる場面では拍手が響き渡りました。 式典開始と同時に静寂した会場は、 大 業をしていました。



間伐作業をされる皇太子さま(写真提供:岐阜県)

挿されると、会場から大きな拍手が沸き の市町村を回った「百年の森づくりリ 鮎が飛び交う様子や、林業作業員や大工 岐阜県の清流をイメージしたせせらぎを 恵み」「百年先への誓い」の三部構成で、 が参加し、 の揖斐小学校児童の司会により、 起こりました。 レー」で丸太が登場。「そりゃー、 た。クライマックスは岐阜県内の四十二 スなど迫力の演舞で観客を魅了しまし に扮した子どもたちによるバレエやダン ンテーマアトラクションへと進行しま その頂に百年先の大木を願う梢が の男衆の掛け声とともに立ち上げ アトラクションには約五〇〇名 女優の竹下景子さんと地 「先人からの贈り物」「森林の ょ



式典のクライマックス

成二十八年度の全国育樹祭は京都府で行 樹祭となりました。この精神を継いで平 いだ森林づくりの取り組みを発信した育 から全国へ、 趣向を凝らした式典によって、岐阜県 間伐の大切さや世代をつな

五日に長野県で開催されます また、全国植樹祭は平成二十八年六月

者に木と触れ合う場を提供しました。 して飛騨森林管理署職員もクラフトや木 スで自社製品の性能や特徴を説明しなが 械五○○台以上が並べられ、各社のブー 機械メーカー六三社により大型の林業機 山市のモンデウス飛騨位山スノーパーク 会」が十月十一日~十二日に、 して、「森林・林業・環境機械展示実演 のおもちゃ体験コーナーを担当し、来場 は高山市美しい森林づくり実行委員会と ら、稼働実演が行われました。会場内で にて開催されました。現地には国内外の このほか、全国育樹祭の記念行事と 岐阜県高

運び上げる作業を、多くの参加者が真剣 に見入っていました。 れており、三種類の最新型機械で丸太を メーカーのタワーヤーダ実演会も実施さ 会場近くの市有林では、欧州や国内

を共有しました。 超える参加者が集い、 池田町で開催され、いずれも五○○名を 全国育樹祭の併催行事は、このほか十 「全国緑の少年団活動発表大会」が 「育林技術交流集会」が郡上市 森づくりの大切さ

平成 十七年度実践研修

術の不足が言われていることから、

応じた架線系システムに関する知識・技

地形条件や出材量、

機械の保有状況等に

を計画する上で、

架線系作業システムに

林ほかをフィールドに実施しました。 月十四日から十六日までの三日間、 年度実践研修 温泉旅館会館及び岐阜署管内の越原国有 [森林技術・支援センター] (中部ブロック研修) 平成二十七 下呂 を十

システムによる間伐計画と木材流通」を もので、中部ブロックでは「架線系作業 ベルアップを図ることを目的として行う 知識・技術を補強し、若手技術者のレ スター)活動を実践していく上で必要な テーマに、中部地方など十県から県、 有林の職員の三二名が受講しました。 昨年のアンケート結果では、局地的な この研修は、 森林総合監理士(フォレ 玉

だきました。

し、知識・技術の習得に取り組んでいた て木質バイオマス発電の取組状況を視察 うとともに、白川町の「森の発電所」に 間伐事業地での現地検討・意見交換を行 的な指導・助言ができるよう、国有林の 含めた木材の生産から流通について実践 よる搬出計画の作成やC・D材の供給も



現地検討を踏まえ架線系統図を作成

られた知識・見聞きした事例を各地域で に活かしていくことが期待されるところ の森林総合監理士(フォレスター)活動 受講者の皆さんには、今回の研修で得

愛知県・名古屋市等へ要望書を提出

要望活動が愛知県・名古屋市・中部地方 バーとして参加しました。 の活動に名古屋事務所としてもオブザー 整備局・東海農政局に対して行われ、 十月六日、愛知県木材利用推進協議会 (鈴木和雄会長)による木材利用推進の [名古屋事務所] 木づかい推進月間中

認証材」の利用促進を求めました。 工事における木材利用の推進と「あいち 望書を手渡し県が関わる公共施設や公共 総務部長など県幹部や県議会議長等に要 愛知県に対しては三名の副知事を始め

界から様々な提案をいただき、県はそれ う」といった旨の発言がありました。 を支援するという形で取り組めればと思 も計画を立て盛り上げていきたい。 祭の開催も決定したことから、 森岡副知事からは「四年後の全国植樹 県として

のなかで、 てくれてありがたい、名古屋のシンボル ていたことから「このような要望を入れ 天守閣の木造化の推進を要望書に加え を願いたい」との発言がありました。 マークとして実現に努力したいので協力 名古屋市での河村市長との面談 市長が提唱している名古屋城



ところから検討を進める、 いては全体構想をどうするのか、 か検討したいとの強い決意が示されま ついてどこかの学校を木造化できない 木造促進についても、 木造促進の方針に従い、 した。市議会議長との面談においては、 昨年方針が決定された公共建築物等の 市立学校の校舎に 名古屋城につ 木造化できる 市民の

意見を聞ききながら市長と協議していき たい」との考えが示されました。

示されるなど、法律の施行後五年が経 物等における木材利用を検討する意向が しました。 要望書を提出したどの組織も公共建築 徐々に効果が現れていることを実感

古田知事らへ木材利用促進要望 公共建築物等へ木材利用を!

が参加しました。 事務所からは、オブザーバーとして三名 動を行いました。中部森林管理局名古屋 阜県に対し木材利用促進に関する要望活 材利用推進協議会(後藤直剛会長)が岐 **[名古屋事務所]** 十月十九日、岐阜県木

再整備における県産材利用促進の要請を 材・製材端材など木質バイオマスのエネ 進のための支援の充実、間伐材等未利用 する県産材を使用した木造住宅の建設促 を手渡し、公共建築物等の木造化と内装 して、「木材の利用推進に関する要望書 会、林政部、教育委員会など各部局に対 オリンピック・パラリンピック関連施設 ルギー利用の促進、JAS製材品、 業施設等多様な分野における木材利用の の木質化の促進、街づくり・店舗・商工 の県産材利用促進活動の展開、 層の促進、 要望活動は、古田知事をはじめ、県議 ぎふ性能表示材の利用促進、 活動への理解と支援をお願いしま 岐阜県産直住宅をはじめと 東京



(左)

古田岐阜県知事

へ要望書を提出

した。

時期でもあり、これまでの活動を評価し についても、 が間伐を初体験され、ご挨拶の中でも、 ても圧倒的な数字であった。皇太子さま けた。参加者も二十万人で他県と比較し の木材の輸出の流れや獣害対策などにも 業化に関して、中国・韓国・台湾などへ れた。一〇〇年の森づくりを掲げ、 広がっていくことを期待したいと述べら この間伐体験から間伐の重要性が全国に 深い言葉として、今までとは異次元のレ で行われた第三十九回全国育樹祭に触れ 積極的に取り組んでいきたい」などと挨 て、次へ繋げていきたい。林業の成長産 各方面から高い評価を受け、特に印象 ルの高い育樹祭をやったとの評価を受 古田知事からは、先に岐阜県揖斐川町 県の森林環境税も見直しの

ける県産材利用推進方針に基づき、設計 また、教育長からは「公共施設等にお

> ありました。 以上に力を入れていきたい」との挨拶が 木とのふれあいの場の提供に、これまで 施設の木質化という観点だけではなく、 今後も取り組んでいくこととしている。 の段階から木質化を視野に入れており、

後方支援に努めていきたいと考えていま 材の安定供給等を通じ、こうした活動の 名古屋事務所としては、今後も国有林

架線系作業システム 技術向上に向け D

ステム現地検討会」を開催しました。 参加して「平成二十七年度架線系作業シ 各署等から資源活用担当の職員二五名が もと、森林技術・支援センターにおいて、 日、岐阜、東濃の両森林管理署の協力の [資源活用課] 十月二十七日から二十九

業システムの安全性と生産性の向上を図 材の搬出は空中にワイヤーロープを張 性が低い傾向にあることから、 ます。このような架線系作業システムは 集材架線に頼らざるを得ない箇所があり 斜地が比較的多く、 ることが課題となっています。 系作業システムと比較して安全性や生産 高性能林業機械による搬出が可能な車 管内の森林は路網の開設が難しい急傾 木材をつり下げて道端まで搬出する 国有林においても木

有林では、架線作業を経験している職員 方、木材の搬出を計画し発注する国

は減少しています。こうした状況から検 る目的で実施しました。 ステムを推進する架線技術者の育成を図 でいる 一環として、安全で効率的な架線作業シ 「生産性向上実現プログラム」の 現在中部森林管理局で取り組ん

後に演習地に移動し、現地踏査で地形の 地の概要をGIS等により図上検討した 確認や搬出方法等の検討を行いました。 検討会は三班に分かれ、一日目は演習



置場所の検討等により搬出計画を作成 システム及び索張り方法の選定、架線設 二日目は、現地踏査等に基づき、作業 各班の搬出計画に基づいた架線の設

いました。 計及び発注経費の積算について演習を行

等について熱心な意見交換が行われまし 計や積算結果の発表と、設計の違いによ る積算単価。 最終日には、 への影響、効率的な搬出計画 各班の搬出方法、 架線設

効率的な木材供給体制の整備の推進に努 を図り、国有林での事業実施を通じて民 めていく考えです。 有林のモデルとなり、地域の課題である る搬出計画・架線設計に役立てるととも に、様々な業務を通じて職員の技術向上 検討会の成果を架線作業システムによ

森林ボラシティア NPO連携推進会議

[木曽森林ふれあい推進センター]

体と局署職員併せて五二名が参加しまし ることを目的に開催したもので、十一団 理解や、森林環境教育の重要性をPRす 般市民に対し国民参加の森林づくりへの なる資質の向上を図るとともに、 を行うことで、 動する森林ボランティア団体やNPO法 諏訪町において「森林ボランティア NPO連携推進会議」を開催しました。 人との交流促進及び情報交換や相互研鑽 この会議は、中部森林管理局管内で活 十月二日から三日にかけて、諏訪郡下 ボランティア団体等の更 、広く一

一日目は、 参加団体の見識を広げるた



現地で説明を受ける参加者

した。 め「御柱祭」についての講習会を行いま

説明に参加者は聞き入っていました。 坂徹氏による御柱祭の歴史等についての についての説明、下諏訪町議会議員の宮 管理署管内の東俣国有林において、南信 森林管理署職員から御柱と国有林の関係 伐採された御柱が置いてある南信森林

り」「ひのき箸作り」について、 場者に対し誰もが講師として対応できる ように講習会を行いました。 公園に移動し、「木工細工」「竹とんぼ作 その後二日目の会場となる、あすなろ 一般来

例の「森・ふれあいフェスタ」を開催し 二日目は、 今年で十一回目となった恒

等が会場に訪れ、今年初めて実施した、 木製のパーツを組み立てるミニイス作り 爽やかな秋晴れの下、大勢の親子連れ 土からできた不思議な絵の具を使っ

> たドパスアート、 ヘン作りなど、様々な体験を楽しみまし また、下諏訪町のゆるキャラ「やしま 丸太切りやバームクー

だきました。 に木や数々の自然素材と触れ合っていた なり、二日間を通して充実した連携・交 キルを持った団体の技術と接する機会と る」と「万治くん」の登場で会場はさら に盛り上がり、 参加した各署・所の職員も、 延べ約七〇〇名の参加者 様々なス

流の場となりました。

マスコミ関係者が を視し

報道責任者の会)のメンバーを対象とし た国有林視察会を実施しました。 の下、金曜会(長野県内マスコミ各社の **[総務課広報]**十月八日、絶好の秋晴れ

るため恒例として行っている視察会で 運営をマスコミ各社に紹介し、理解を得 し、マスコミ各社から四名が参加されま す。今回は南信森林管理署管内の東俣国 この視察会は、中部森林管理局の業務 横川国有林を視察箇所として実施

明やニホンジカによる被害状況、 「くくりワナ」による防除対策等を実行 有林で、南信署から東俣国有林の概要説 樹皮はく皮などの被害が見られる東俣国 !係機関と連携しながら防鹿柵の設置! 最初の視察箇所は、ニホンジカによる 地域の

(6) していること等について説明を行いまし 午後は、

がら搬出されるとの説明もありました。

ブではモミを縦にするなどして工夫しな

たモミの搬出に当たっては、

林道のカー

ら土場まで効率的に集材されている様子 械の活用によって実行されており、 現地は集材線による集材と高性能林業機 ヒノキの間伐箇所の視察を行いました。 を視察しました。 横川国有林に移動し、 山か



様子がうかがえました。また、伐採され 初めてということでした。既に伐採は終 たモミの巨木を山側に慎重に伐採された 了していましたが、急傾斜地に立ってい た。横川国有林から上社への御柱供給は 柱用材となるモミの巨木を視察しまし 来年の諏訪大社上社御柱祭の御

との要請をして視察会を終えました。 欲をもって取り組んでまいりますので がら、林業・木材産業の成長産業化に意 事業を実行した瀬戸沢を視察しました。 の皆様とが連携し、創意工夫を凝らしな できた」との言葉をいただきました。 ている役割について理解を深めることが から平成二十六年度までの間に復旧治山 雨によって崩落が発生し、平成十九年度 層の御支援・御協力をいただきたい 最後に、桂川局長から「行政と関係者 参加者からは「国有林が地域に果たし 平成十八年七月の梅雨前線豪

技術者育成研修 一十七年度

材を育成する技術者養成研修(中部ブ 理士(フォレスター)の候補者となる人 有林、七宗国有林をフィールドに実施し 呂温泉旅館会館及び岐阜署管内の乗政国 ロック研修)を九月一日から四日間、下 [森林技術·支援センター]森林総合監

など七県から県、 実習等を主体に行うもので、 しました。 この研修は既に実施済の技術者育成研 (中央研修)修了者を対象として現地 及び森林管理局の職員三三名が受講 市町村、 民間 中部地方 (建設業



現地演習

進められました。「森づくりの構想演習」 施しました。それぞれ現地検討からグ 林・林業を地域の振興につなげるビジョ 環的な木材生産の戦略を描ける能力と森 また「資源循環利用構想演習」では、循 では、森林を科学的に評価する能力を、 ンを構築できる能力の取得を目指して実 連のカリキュラムにより進められまし 研修は大きく二つのテーマに沿って プレゼンテーションという

林業の成長産業化、山村地域の活性化に 得を目指すとともに、この研修で得た 貢献することが期待されています。 林業の現状把握と課題の共有に活かし、 知識・技術・ネットワーク」 研修終了後は、森林総合監理士資格取 を、地域

各地からのたより

分収造林事業協力者に

局長感謝状を贈呈

業に協力いただいている佐久市大沢財産 区に対し、 信森林管理署長から贈呈しました。 中部森林管理局長感謝状を東 十一月九日、 長年分収造林事



局長感謝状贈呈 (中央:松井署長と財産区の方々)

り)の里親契約」などの森林整備協定を 制定記念分収造林の契約を八月に締結し ラピー体験を行うなど、一般の方々に森 締結し、森林整備ボランティアや森林セ を育成し、 森林管理局管内では初めての、 積極的に展開しています。また、 林・林業への理解を深めてもらう活動を した体験林業活動や企業と「森林 大沢財産区は、 管理する分収造林地を利用 「大沢みどりの少年団」 「山の日 中部 É

の活動に期待しています。 ていただきました。今後も、

大沢財産区

を順番に回り、

伐採を指揮する

「山作り

阿柱用材伐採式 伊那谷横川国有林で開催

国有林で行われました。 から十月五日の間、上伊那郡辰野町横川 上社御柱用材のモミの伐採が九月十六日 来春の諏訪大社御柱祭に向け

り作業が困難なため、時期を早めて実施 伐採が行われました。 も太い「本宮一」と「本宮三」の二本の されたものです。初日の九月十六日は最 林が急傾斜で、冬期は降雪及び凍結によ が、今回、御柱用材を供給する横川国有 祭り直前の三月に行われるのが慣例です これまで、上社の御柱用材の伐採は

名が参加して、上社の本宮(諏訪市) 当日は、大社の神職や氏子ら約一三〇 (茅野市) に建てる御柱用材八本 ر ح



立てながら予定した山側へ御柱用材が倒 業が慎重に進められました。 之柱は古式にのっとり斧とのこぎりを使 周囲三・三五㍍と上社で最も太い本宮 れました。その後、 作業開始から五時間、めきめきと音を 「神斧」による斧入れと鋸入れが行わ 「協力一致」の合い言葉の下、 により上社特有の神事である朱塗り 目通り (目の高さ) 伐採作

歳が沸き起こりました。 れると見守っていた氏子衆から歓声や万



轟音を立てながら倒れる本宮 之御柱

き に遭い御柱用材の供給は難しい状況が続 和三十四年の伊勢湾台風により倒木被害 (茅野市) 上社の御柱用材は、 東俣国有林や立科町の町有林、 から調達していましたが、昭 伝統的に御小屋山

山国有林から調達してしのいできまし

代経験者らでつくる「自然と地域と人を や森林整備活動を行う予定です。 化を支える森として、 結ぶ協議会」と南信森林管理署が木の文 決まったことを契機に、 く森」の名称で協定を結び、 今回縁あって横川国 「御柱の心をつな 有林からの供給が 今年三月、 モミの植樹

迎えることになります。 並べられ、四月二日から四日に上社山出 村境にある曳航開始地点の「綱置場」に れました。来年三月に茅野市と諏訪郡原 の複合施設「かやぶきの館」に仮搬出さ 及びグラップル等により林道上まで引き 上げられ、横川国有林の麓にある辰野町 しを行い、五月三日から五日の里曳きを 現在、伐採された御柱用材は、 集材機

木材利用の推進をテーマに 現地研究会を開催

進をテーマに現地研究会を開催しまし 団体協議会と当署の共催で木材利用の推 十月十五日、 富山県地域振興

山」、そして当署で実施している治山工 た大型複合店舗 ンエネルギー北陸」、木材を多く使用し 名が参加し、バイオマス発電所 おいて木材の利用の実態を確認しまし 当日は、 「常願寺川民有林直轄治山事業地」に 市町村の林務担当課長等十六 「モンベルヴィレッジ立 一グリー

今回参加した市町村において、

さらに木



発電施設の説明を聞く参加者

消費されることになっており、当署から 年六月から稼働し、年間五万りの木材が 木材を供給することとしています。 バイオマス発電所は、射水市で今

ことになりました。 証できたことから、 止工の上流側に、 川地区の民有林直轄治山事業地では、 すが、木造平屋建、 日に立山町にオープンした民間の施設で を楽しめる施設となっています。 フェなどを併設した総合的にアウトドア 工の岩登りやカヌー等も体験でき、 で木材を多く使用しており、 モンベルヴィレッジ立山は、 下流側には国産材合板型枠を使用 富山県木材研究所と共同で強 国産材合板型枠の使用に当 丸太の残存型枠を使用 この研究会により、 約一、六〇〇平方以 富山県でも使用する 問題ないことが実 店舗では人 九月十八

(8) 材が利用されることが期待されます。

長野県林業大学校樹木学実習 (樹種の見分け方等を学ぶ)

休養林において樹木学実習を行いまし 一学年生徒二〇名を対象に赤沢自然 十月二十三日、 長野県林業大

が難し をしながら説明を行いました。生徒から 木曽の林政史について、休養林内を散策 伝えながら、木曽ヒノキ林の成立過程や 等複数の角度から樹種を見分けることを キとサワラの違いを見分ける方法をはじ のです。当署の職員が講師となり、 け方を身につけることを目的としたも ある木曽五木をはじめとする樹種の見分 め、葉のみではなく、樹皮、枝の付き方 この樹木学実習は、赤沢自然休養林に 「一度見ただけでは樹種を憶えること 何度も観察して憶えていき ヒノ



木曽署職員の説明を聞く生徒

地 元高校生の就労促進の取組 (恵那農業高校生が森林管理や 林業などの現場を学ぶ〉

担う人材を育てる取組を実施していま 校及び岐阜県恵那農林事務所と連携し キュラムがある岐阜県立恵那農業高等学 [東濃署] 当署では、 平成二十五年度より、 林業関係のカリ 森林・林業を

す 持っていただくことを狙いにしていま 来の進路 林業現場の視察や体験をすることで、将 年生から三年生を対象に、 恵那農業高等学校環境科学科の生徒 の選択肢の一つとして関心を 地域の森林

授し、樹木学実習を終了しました。 養ってほしい」と憶え方のノウハウを伝 本樹皮の色や模様、 たい」「木曽の森林の成り立ちが分か で何度も木に触れてみて自分の見る目を て良かった」等の感想がありました。 当署職員から「ヒノキでも一本 今日だけで憶えることは難しいの 枝の張り方も違って

えています。 担う人材の育成に貢献していきたいと考 フィールドの提供を通じ、将来の林業を 関があることから、 いった林業及び木材加工の教育・訓練機 木曽地域は、長野県林業大学校を始 学校等の行事に参画し、 木曽清峰高校や上松技術専門校と 今後も機会を捉え 国有林の

今年度、その取組を三回実施しました

た。

の構造が成り立っていることを学びまし



明知国有林での高性能林業機械の見学

えてみよう」をテーマに、一年生四〇名 ちの意見を聞いて、将来の職業として考 建築までの一連の流れを見学しました。 ので、その一例をご紹介します。 ようなものかよく見て、そこで働く人た 十月十四日、「地域の木材産業がどの 森林での木材生産から流通、 加工、

察していました。 様子を見学しました。生徒は、 樹齢約六○年の人工林ヒノキを伐出する 実際にプロセッサやグラップル、 る様子に感動しており、 ヘーダなどの高性能林業機械を使用して が機械的に枝落としや定尺で木を玉伐 初めに、明知国有林一、一一一林班で、 操作レバーや構造をじっくり観 停止した機械に プロセッ フォ

物共販所及び恵那小径加工協同組合を訪 搬入された材の選別やその材の売り 岐阜県森林組合連合会東濃林産

> 見学しました。 された工場内で材が柱や板になる工程を 材の値段について学んだ後、

生徒たちは普段家で目にする木の柱や

を目にし、それらの材で家などの建築物 れた材を販売している木ポイント流通セ 端を学んだようでした。 板がどのように作られているのかを見て ンターを訪問し、 大変関心を持った様子で、 次に、この地域の製材工場で製品化さ 用途別に多種多様な材 材の流通の

らず関心を持ったと感じました。 考えられないが興味を持ったが八三覧と は森林・林業に関連する職業に携わって 的であったが一二

三

だ

、

仕事としてはま

だ をとったところ、 によるこの取組を続けていきたいと考え いただくことを望みに、 いう結果で、森林・林業について少なか この学習会で、 生徒たちにアンケート 将来の仕事として魅力 今後も三者連携 いずれ



木ポイント流通センターの見学

「森林官からの便り

神坂森林事務所」

首席森林官 羽田野 佳春

川上、湯舟沢、賤母国有林四、〇四〇鈴 川市神坂に位置し、長野県境に接する 冟行造林十六鈴を管轄しています。 神坂森林事務所は、岐阜県東部の中津

市に合併されたことにより当森林事務所 が管理していた賤母国有林は、平成の大 に流域整序され現在に至っています。 合併により長野県木曽郡山口村が中津川 が管理していました。また、南木曽支署 湯舟沢国有林は、旧坂下営林署

あることから多種多様な植物が生育して 在し、九割が天然林で温・暖帯の接点で 賤母国有林は、国道一九号線沿いに所 植物群落保護林に指定されていま

た。 界山登山などを目的に多くの方が来場 ご当地自慢で紹介させていただきまし なっています。国有林入口には夕森公園 天然林が四十六誓、人工林が五二誓と 川上国有林は、 観光客は年間十五万人を超えていま (川上地域については本誌七月号の 夏はキャンプ、秋は紅葉、 一、二三六鈴を有し、 奥三

ています。 天然林が六二㍍、人工林が三六㍍となっ 湯舟沢国有林は、二、五七二鈴を有し、 国有林のほぼ中央を中津川市

> ます。 され、 石室 風穴は蚕の卵の冷蔵貯蔵石室として利用 暫く走ると「神坂の風穴」が現れます。 きます。中津川市神坂から峠に向かって 難所ともいわれていましたが、 林道大谷霧ヶ原線が神坂峠まで通じてい い山岳道路ではあるものの車両で通行で の規模といわれていました。 (風穴) があり蚕種の生産は日本 かつては東山道の中でも、 かつては神坂峠西麓に約三〇基の 現在は細 最大の



かつて利用されていた

道が延びており、 れの道を上りきると神坂峠に到着しま 峠へ向かう気力を養ったといわれていま 道の旅人はここで喉を潤し一時の安息と の名水に認定されており、 さらに神坂峠に向かって登ると「強清」 が現れます。昭和六十一年に岐阜県 峠からは恵那山や富士見台への登山 「神坂大檜」もあり、 道から外れるものの巨樹・巨 富士見台からは中央ア かつての東山 つづら折

> ルプスや南アルプスなどの雄大な景色が 望できます。

> > どに目玉と紐を付けてストラップにした

「もっくん」

一作製の様子です。

今回で三

回目の参加で森林技術員の両名もコツを

生.



り」で、除伐した長さ三ギシムス程の小枝な 十一月八日に行われた「夕森もみじまつ にも積極的に参加しています。写真は 持などを実行するとともに地域の行事 点検、境界の維持管理や林道の点検・維 しています。日頃は獣害防護柵の保守・ 森林技術員二名、 神坂森林事務所には首席森林官のほか 行政専門員一名が所属



の作製を指導する森林技術員 「もっくん」

冷たく清澄な「強清水」 送っています。 する職員の協力を得ながら多忙な日々を 対策にも取り組むこととしており、 約四九鈴、 得て来場者に対応しました。 産事業や立木販売での皆伐・間伐七箇所 一○鈴を計画しているほか、ニホンジカ 本年度、神坂森林事務所管内では、 造林事業の新植が四箇所約



中部森林管理局人事

休職(東濃署主任事務管理官)

、休職の期間を平成二十七年十一月 一十三日まで更新する

十月三十日付

▽育児休業 (東信署森林官 (真田担当 健

二十七年十一月二十七日まで) (平成二十七年十一月九日から平成

◎第三回 12月2日 「木曽悠久の森」管理委員会 中部局

◎養成研修 森林官養成科 12月7日~11日 中部局

揖斐川町 岐阜森林管理署

県と接しています。 斐川町を紹介します。揖斐川町は岐阜県 の南西部にあり、北は福井県・西は滋賀 今年十月、 全国育樹祭が開催された揖

ち合わせた地域です。 反面、夏は暑く、酷暑と豪雪の両面を持 を含め豪雪地帯として知られています。 ムがあることで知名度が高く、この地域 多目的ダムとしては日本最大の徳山ダ

在の揖斐川町が誕生しました。 村・春日村・坂内村・藤橋村が合併し現 平成十七年に揖斐川町・谷汲村・久瀬

紹介します。 全国育樹祭の会場となった谷汲地域を

谷汲緑地公園

終了した現在はリニューアル中となって なった谷汲緑地公園は、 大に開催された全国育樹祭式典会場と 十月十一日、皇太子さまをお迎えし盛 華やかな式典が

産スギ製の「川湊灯台」、「森湊灯台」に ついてはそのまま活用され再び市民の憩 皇太子さまが着席された「御席」や県



いの場となる予定です。 ·谷汲小学校

年度にかけ谷汲小学校校舎を新築しまし んでいる同町は、平成十七年度から十八 る以前から公共建築物の木造化に取り組 公共建築物等木材利用促進法が成立す

は約一、○○○立方㍍の木材を使用、う 延べ床面積約五、三〇〇平方だの校舎



谷汲小学校のランチル

全国育樹祭会場となった谷汲緑地公園 (中央の「御席」は残される予定)

ます。 リーナ・音楽室はそれが十分伝わってき が、特に吹き抜けのランチルームやア ち四二

には県産材を使用しています。 随所に木材の良さが伝わってきます

して利用されました。 全国育樹祭では来賓の方々の休憩所と

り」は、岐阜県の重要無形文化財第一号 十一月に奉納されます。 に指定されており、 育樹祭の式典でも披露された「谷汲踊 毎年二月と四月及び

重要文化財をはじめ、檜皮葺の仁王門や

一両界山横蔵寺」があります。

国指定の

また、会場の西には、

同じく天台宗の

という飾りを背負い、大太鼓を抱えて踊 色和紙で飾り鳳凰に見立てた「しない」 る姿が有名です。 三〇本を扇の骨のようにまとめ、 長さ四点の竹を半分に割り二本から これを

文化財を有していることから

「美濃の正

も指定されています。このように多数の 本堂、三重の塔は岐阜県の重要文化財に

倉院」とも呼ばれています。

を学んでいます。 を後生に残すべく十数年前からこの踊り 前述の谷汲小学校の児童も地域の伝統

期には特に多くの参拝者が訪れます。

いずれも、紅葉の名所でもありこの時

アクセス方法

東海環状道大垣西ICから北へ、揖斐

川町谷汲振興事務所まで、約四〇分

谷汲小学校のアリーナ

・谷汲山華厳寺と両界山横蔵寺

横蔵寺仁王門(檜皮葺)

唯一近畿地方以外にあり、 院となっています。 三十三番札所、三十三所の札所としては 育樹祭会場の東にある「谷汲山華厳 は天台宗の寺院で西国三十三所 満願結願の寺